

# ノロウイルスについて。～その2～

今回は、流行拡大を防ぐために、どのようにウイルスが拡がるか及び気をつけることについてです。

## ◆どのように拡大するのか？

二枚貝（牡蠣など）の喫食では、食べた個人だけが食中毒になりますが、ほとんどの場合、感染症として拡大し、二枚貝の食中毒よりも多くの患者が発生します。

### ㊟ 便から拡がる

- ✦ 下痢便の場合、便器やその周辺（便座の裏など）に飛び散り、ウイルスが拡がります。
- ✦ 通常、紙で拭き取りますが、拭くときに指先を汚染したり、肛門周囲のおしりに飛び散ったしずくで、袖口や親指の根元あたりが汚れます。
- ✦ その手で、水を流すノズル→ドアを開ける→手洗い水栓を触るため、それらは汚染されていきます。また、不十分な手洗いでは、手の汚れは残ったままです。
- ✦ 元気な人が、水を流すノズル→ドアを開ける→手洗いする時、手洗いが不十分だと、その手にはウイルスが付着してしまいます。
- ✦ その手で、ドアノブや電気スイッチなど、皆が触るところを経由して、拡大していきます。

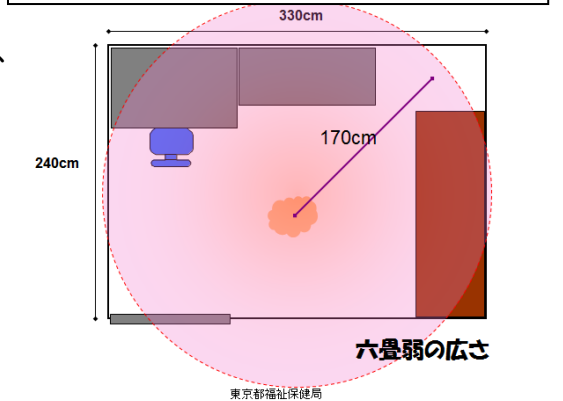
「トイレを起点とするノロウイルス汚染拡大の検証」  
長野県北信保健福祉事務所



### ㊟ 嘔吐物から拡がる

- ✦ 出来るだけ人が少ないところで嘔吐できれば良いのですが、通常、生活環境の場で嘔吐することが多いです。
- ✦ 立ったままで嘔吐するなど、ある程度の高さから嘔吐すると、飛び散る範囲も広がります。1mの高さから嘔吐したとすると、周辺半径 170cm に飛び散ることがわかっています。
- ✦ 嘔吐物を処理し、見かけ上きれいになったようでも、残存したウイルスが、そこを通る靴底、台車の車輪などに付着し、拡大していきます。
- ✦ 飛び散ったり、乾燥した嘔吐物が乾燥すると、ウイルスが空気中に浮遊し、部屋にいる人に感染します。

「社会福祉施設におけるノロウイルス予防対策  
～汚染経路の分析とその対策～」  
東京都摩府中保健所



### ㊟ 不顕性感染患者から拡がる

- ✦ 症状が全く出ない患者（不顕性感染者）も、便には大量にウイルスを排出します。患者も症状改善後しばらく（3週間前後）、便中にウイルス排出が続きます。
- ✦ 調理従事者（無症状で健康者）で、流行期には12%が不顕性感染していたという調査結果もあります（2015年福島県衛生研究所年報）。調理従事者は、自身が感染しないように、普段から食事内容（十分な加熱を心がける等）、家族の健康状態にも注意しましょう。

## ◆気をつけること

- 流行時期には、健康であっても、誰もが皆、トイレ利用の後には十分に手洗いすること。手洗い後、水を止める必要がある場合、洗った手を再び汚染しないように、汚染された蛇口を直接接触せず、ペーパーなどを利用して止めるようにする。流行期が秋から冬のため、温水を使用し、丁寧に手洗いするよう心がける。
- 嘔吐物を処理するときは、①素早く対応、②乾燥させない、③広範囲に飛び散る事に注意する。処理する人自身が感染しないように注意し、処理中・処理後も換気に注意する。
- 調理従事者、福祉施設等職員の方々は、流行前から、感染性胃腸炎の流行状況に注視し、早めに対策を整えるようにしましょう。



出ていますか？衛生的な手洗い(リーフレット)  
[http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/link01-01\\_leaf02.pdf](http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/link01-01_leaf02.pdf)